



港区新橋5-15-5
交通ビル 3F
国労東日本本部
発行責任者 佐藤 勝雄
編集責任者 伊藤 隆夫

2005年2月4日
第622号
定価 20円
組合員の購読料は
組合費に含まれています

もう一人の仲間を国労に
国労加入を
大胆に訴えよう

各地方本部・支部組織部長、青年対策部を
招集し、第7回組織拡大会議開催



もう一人の仲間を国労へ!

国労東日本本部は1月22日(土)、新橋交通ビルB1ホールにて第7回組織拡大会議を開催し、第6回会議以降の具体的な成果を全体で共有するとともに、今日の情勢認識の一致から当面する組織対策に向けた意思統一を行った。

藤野副委員長の司会挨拶で始まった第7回組織拡大会議。
東日本本部執行委員会を代表して挨拶に立った佐藤委員長は、冒頭、新潟中越地震義援金カンパのお礼を述べると共に被災された組合員より礼状が届けられていること(今号裏面)を紹介し本題に入り、「情勢は『第6回組織拡大会議』以降大きな変化を見せています。」と、昨年9月16日の配属12事件の和解による一括解決以降、年明けの高崎配属事件和解、「ベンディング事業所の縮小・廃止」の実現、154名の仲間の元職種を中心とした復帰の流れに触れ、更に「中労委関係者の熱意を真正面から受け止めると同時に、昇進事件の和解協議の条件が整ったと判断し和解協議を進めているところでもあります。」と報告。同時に、「情勢は和解協議を国労組織の飛躍に結び付ける組織全体の奮闘を求めていると思います。相手の失点を待つのではなく、国労自身が大きく成長し、様々な相談、話し合いを持ち込んでこられる人間的な大きさを持たなければなりません。和解協議の結果得られる『不公平感のない労使関係』を労使対等の力関係にまで高めるには仕事は言うまでもなく、会社施策に対する改善能力や人間関係の面においても職場の中心的存在になっていたかなければなりません。」と参加者に訴えた。
続いて、本部芝崎中執の挨拶を受けた後、伊藤書記長が、昨年の5月に開催した第6回組織拡大集会以降、今日までの「経過及び組織強化・拡大にむけた提起」を行い、この間組織拡大を勝ち取った東京・仙台・千葉地本(別途掲載)からの取り組みを全体で学びあい、再度、東日本本部より「青年対策部の現状」報告、「ホームページ開設に向けて」の説明を行った。



以上の報告を受けその後会議は、貨物職場を代表して林長野貨物協議長の報告から討論に入った。
「年3、4回組織対策の会議を開催し議論するものなかなか結果が出ない。地本として本腰を入れる。」(水戸)、「この間、組織対策行動委員会を設置してきた。次にどう踏み込むのが課題。」(横浜)、「昨年4月に組織対策プロジェクトを結成した。」(高崎)、「会社との関係が改善されれば変に気を使わなくとも良い部分が増える。」(盛岡)、「組織を守って拡大を図ろうと機関紙講座・学習会を開催。」(新潟)、「ユニオンの脱退で一時は一桁になった支部も、20名以上に戻り組合員も元気に」(秋田)、「職場には不満がある、1つ1つをつなげる取り組みが大切、本部青対も頑張る!!」(本部青対部)、「自分が加入した当時は、日貨労によるプレッシャーがあった。新加入者への廻りの激励は大切」(森岡青年部長)の報告・交流をうけ、伊藤書記長のまとめ(別途掲載)を全体で確認し、最後に佐藤委員長の団結ガンバローで組織拡大に全力を上げることを再度、意思統一した。

◆ 東京地本 齊藤組織部長



昨年のこの会議以降4名の拡大を勝ち取る事が出来たが、依然として意識の中には脱退者には「仕方がない」、「戻る人は戻ってくればいい」との意識がある。もっと真剣に話しかけていかないと拡大は難しい。

◆ 仙台地本 原田山形県支部委員長



3年前のユニオンの分裂でダメージを受けたが頑張ってきた。
今回の加入はユニオンからで、山形では当初ユニオンの組合員に情報は知らされていなかった。今回の統一で「三年前には一緒にならないと言っていたのに何故?」の不満あり。引き続き頑張る。

◆ 千葉地本 小倉千葉支部執行委員



昨年の7月に東労組から1名が拡大。東労組内には組合役員の言う事を聞かないと差別がある。漠然と誰かを入れようと言うことではなく、この人と決めたら、皆で声掛けしないと増えない。国労を拡大したいというのはみんなの思いだ!!

第7回組織拡大会議 書記長集約

昨年5月の第6回組織拡大会議以降、各地方本部・支部・組合員の奮闘で7名の組織拡大の成果の報告ができたことを全体で確認します。
組織拡大で奮闘された取り組みの中に、成果と問題点の報告がされました。特に国鉄の「分割・民営」化の経過の中で組織脱退に対する感情など今日も引き続き職場には存在している。また、組合員一人一人が他労組に脱退しても「人間関係」を大切に継続して組織拡大に結び付いた報告もあります。
第7回組織拡大会議のまとめとして

- ① 新たな状況・局面の認識の意思統一をはかる。
- ② 今日までの組織拡大の経過に学び、日常的に「人間関係」「世話役活動」などを大切に行っていく。
- ③ 2月を準備期間とし、3月・4月を組織拡大月間として各地方本部は具体的取り組みを行う。
- ④ 6月に第8回組織拡大会議で強化月間拡大報告・成果・問題点などが交流できる会議を開く。

以上をまとめとします。

「新潟中越」地震カンパ

ご協力ありがとうございました

短期間にもかかわらず1千万円を集約

昨年10月23日に発生した「新潟中越」地震は国労組合員も多く被害を受け、国労東日本本部は全組合員に一人、1,000円を目標にカンパ活動を各地方本部の理解のもと取り組んできました。

12月14日に、地方本部代表者会議で多くの組合員から寄せられた見舞金の配分を決定し、関係地方本部は昨年末に向けて被災者への見舞金が渡され、東日本本部に多くの被災された組合員・分会から感謝の手紙などが寄せられています。

国労東日本本部は非常に短期間の中で各機関が取り組まれたことに心から感謝申し上げます。

お寄せ頂いた連帯とご厚意に御礼申し上げます 新潟地方本部 執行委員長 守橋久仁雄

昨年10月23日発生した中越地震では、全国からたくさんの励ましを頂きました。

国労本部は、いち早く新潟県に援助金を届け、国労東日本本部傘下の組合員からは被災組合員に多額の援助金をお寄せ頂きました。誠にありがとうございました。

地方本部は、年の瀬、中越支部と共に援助金を携え、被災者宅を一軒一軒訪問し、家族会などからも救済物資が寄せられていましたので、それらも一緒に届けて参りました。

思いがけぬ突然の訪問に『組合は有難いものですね』と何度もお礼を述べられたご家族や援助金を仏前に供えられたご家族など、私たちも一緒に感動を頂きました。

仲間のみなさんの温かい気持ちは十分伝えることができたと思っています。

被災地では約1万人の人達が仮設住宅で新年を迎えました。暖冬とはいえ多いところで150センチの積雪です。いよいよこれから本格的な降雪期に入ります。余震が続くなかで『傾いた家が雪で倒れないか心配』『屋根瓦が崩壊している。職人の手が回らずシートで覆ったまま』など不安の声も聞かされましたが、復興の春に希望をつなげ今冬を乗り切る決意も伺うことができました。

これまで本部はじめ各級機関並びに組合員・家族のみなさんから寄せて頂いた連帯とご厚意に、あらためて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(2005年1月)

震災お見舞いに感謝いたします 新潟地本 中越支部長岡車両センター分会 大橋 清志

10月23日の中越地震に際し、全国の組合員の皆様より多数のお見舞いを頂き誠にありがとうございました。

被災者全員感謝するとともに御礼申し上げます。

当日私は、家族と家で夕食を食べ始めたところ、突然大きな揺れを感じ、同時に停電となり石油ストーブを消して妻子の上に覆いかぶさるのが精一杯でした。揺れは数十秒間続き、揺れている間に私の上に内壁が落下してきたのです。ようやく揺れが収まり、家の中から外へ逃げ出しましたが、数分後に最初の余震がきて、立っていることもできない状態でした。

その後、近所の人と家の前の田んぼに避難していると『石坂小学校を避難所として開放した』との連絡が入り、真っ暗な学校の体育館へ避難しました。当日はすごく寒い日でしたが、避難所の小学校には毛布はなく(7・13水害で使用したため)防寒シート一人一枚で

夜を過ごしました。翌24日朝、明るくなるのを待って家を見に行くと屋根瓦は落ち、戸は外れ、家の中の電化製品や家具がほとんど倒れ、足の踏み場もない状態でした。一部の壁は完全に落ち、残った壁も



被災四地本へのカンパ金贈呈 (04年12月14日)

ヒビだらけ、トイレや浴室の床は段差がついていました。それでも家の中を片付けようと始めたら、また大きな余震がきて怖くなり、すぐ避難所へ逆戻り。本格的な片付けは地震後1週間が過ぎた10月30日からでした。

11月3日まで避難所にお世話になり、その後はキズだらけの自宅に住んでいて、今でも余震が続くので寝る時は家族全員一階の居間に寝ている状態です。

私の家は長岡市の村松町で新幹線の脱線現場の町内です。全村民が避難した「山古志村」から5,6キロ離れたところにあります。数日後、避難所に設置されたテレビを通じて今回の地震の凄まじさを知り、改めて恐怖感が増したことを一生忘れることはないと思います。

今も、家もボロボロ、周囲の道路や山々もキズだらけですが、今後どれだけの日々を費やしてでも以前の家に環境を少しでも近づけるよう全員で努力していきます。そして、ご支援くださった皆様に震災前の中越を見て頂けるよう頑張ります。

最後に、もう一度感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(2004年12月25日)

お礼状は以下にご紹介する皆様にもいただいておりますが、紙面の都合上お名前だけ掲載させて頂きました。

長野地本東北信支部飯山線分会 桜井敬三さん、東京地本新橋支部信濃川発電所分会 阿部栄さん、秋田地本秋田総合車両センター支部 佐々木良勝さん

僕のがん保険は、
病気もケガも保障する。

しかも、保険料が生上らない。保障が生つつく。
がん保険を選ぶなら、アメリカンファミリーです。

新健康応援団 MAX
終身タイプ

21世紀がん保険 + 特約MAX21

「がん」の生涯保障 <21世紀がん保険>	
BESTプラン・1倍	ご本人の保障
初めて診断されたとき	＜一時金として＞ がんの場合 100万円 上皮内新生物の場合 10万円
入院したとき 安心の無制限	1日につき 10,000円
手術を受けたとき	1回につき 20万円
高度先進医療を受けたとき	技術料に応じて 6~140万円
通院したとき	1日につき 5,000円
がんで死亡したとき	10万円

＜引受保険会社＞
自信があります。私の医療保険。

AFIAC アメリカンファミリー生命

東京第三営業本部 第三支社 ☎03-3344-1889
〒163-0456 新宿区新宿2-1-1 新宿三井ビル

がん以外の「病気・ケガ」の生涯保障 <特約MAX21終身タイプ>	
ケガの保障は90歳までとなります。	ご本人の保障 [本人型]
病気で入院したとき	1日につき 5,000円 (1日目から)
ケガで入院したとき	1日につき 5・10・20 万円 (1日につき(手術の種類により))
がんを含む病気・ケガで 所定の手術を受けたとき	1回につき(手術の種類により) 5・10・20 万円

・保険期間:終身(ケガの保障は90歳までとなります)・疾病・災害入院給付金日額5万円
・契約年齢:満3歳~満80歳(本人型)・1回の入院については124日まで保障 ※日帰り入院(1日入院)とは、入院日=退院日の入院で、入院料の支払いの有無で、入院であるかどうか判定されます。

◎詳細はパンフレット、ご契約のしおり・約款をご覧ください。

■募集代理店
アベニール 株式会社
TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

AFN広告-2003-015-0402051 2月21日